

集団宿泊活動プログラムづくりの留意点



集団宿泊活動において期待できる児童・生徒の成長

集団宿泊活動では、日常とは異なる生活環境の中で、豊かな自然や文化に触れる体験や仲間と協力・協働しながら生活をする体験ができます。具体的な体験やかかわり合いを通して、児童・生徒は感動したり、驚いたり、また、失敗したりしながら、「なぜ?」「どうして?」と考えを深め、実際の生活や社会、自然の在り方について学んでいきます。五感を通して、様々なことを知る体験的な活動は、児童・生徒の思考を活性化させ、学ぶことの喜びや意欲を生み出すことにもつながります。

そのような集団宿泊活動における学びの効果を高めるためには、指導する側が「教育的効果を高める指導のポイント」をしっかりと押さえながら、計画・実施していくことが大切になります。

期待できる児童・生徒の成長

「自分にも できた！」

自尊感情の高まり

「早起きは気持ちいいな」

規則正しい生活

「力を合わせて

達成したよ」

協力・協働

「ありがとう」

思いやり、感謝

「みんなのために
働くっていいな。」

勤労・公共の精神

「仲間と一緒に

いいな。」

信頼・友情

「やった！

最後までできた！」

努力・達成感

「そうなんだ！」

「もっと知りたい！」

学ぶ意欲

「自然おもしろい！」

自然愛護、感動



教育的効果を高める指導のポイント

ポイント1 「ねらい」を明確にしましょう

教育的効果を高めるためには、まず指導者の「思い」(伸ばしたい力や感じてほしいこと等)を整理し、「ねらい」を明確にする必要があります。言い換えると、「『何のために』その活動をするのか」を念頭に置き、「『どのように』児童・生徒の成長を促すのか」を考えるとということです。「ねらい」に即した活動プログラムづくりを行い、プログラムに一貫性(ストーリー)をもたせ、効果を高めましょう。

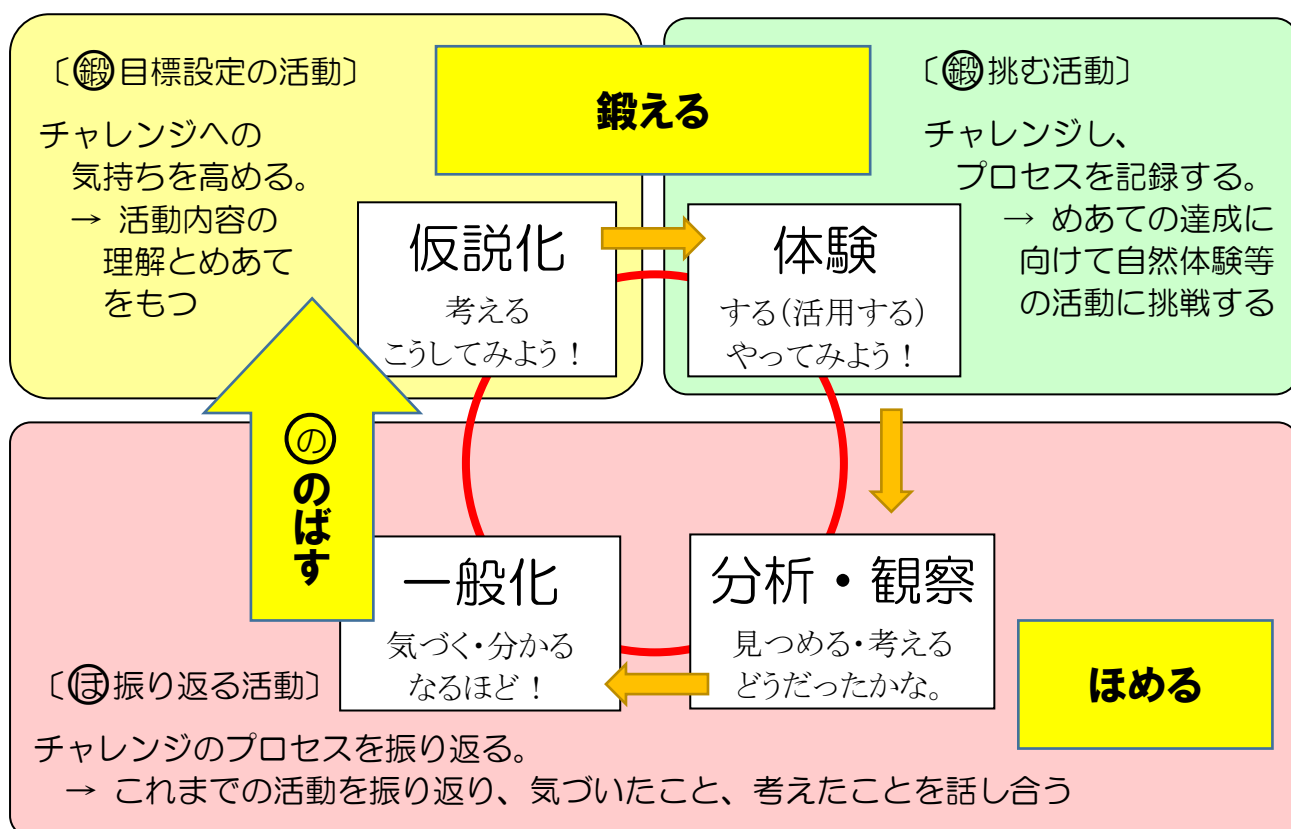
そのために、「プログラムデザインワークシート」(P6)の活用を推奨しています。①めざす学級・学年(団体)像、②子どもたちの実態、③集団宿泊活動のねらい、④ねらいを達成するための活動プログラムの順で記入して、どんな集団宿泊活動にするのかデザインしてみましょう。

プログラムデザインワークシート		福岡県立少年自然の家「玄海の家」
団体名: _____ 代表者: _____		
利用期日: 月 日() ~ 月 日() 泊 日() 名		
① 学級や学年(団体)の理想とする姿は、	② 子どもたちの実態は、(クラス・学年の実態・課題などを記入)	
③ 実態を理想に近づけるために、今回の宿泊活動では、○○な力をつけたい/○○を学ばせたい。 (集団宿泊活動のねらい)		
④ そのために、今回の宿泊活動では、どんな活動をプログラムデザインしますか?		

※「プログラムデザインワークシート」は、「玄海の家」ホームページからもダウンロードできます。

ポイント2 「体験」から学びのある「体験活動」へ

「体験」とは、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことです。「五感（見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触れる）」を働かせたり、組み合わせたりして外界の事物や事象に働きかけ、学ぶことです。「体験活動」とは「体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験するものに対して**意図的、計画的**に提供される活動」を指します。つまり、「体験」の教育的効果を高め、「体験活動」にするためには、ポイント1でつくったねらいに沿った指導者の意図的な計画や仕掛けが必要になります。



実施する活動に対して、3つの学習過程を仕組むことが基本です。福岡県が展開している「鍛ほめ福岡メソッド」においても、3つの活動として、達成する目標を決め、活動にチャレンジする気持ちを高める《目標設定の活動》、目標の達成に向かって、主体的に活動・挑戦する《挑む活動》、活動のプロセスを振り返り、次への意欲をつなぐ《振り返る活動》の活動サイクルを基本的な仕組みとしています。

また、指導者はこの活動サイクルに沿って、子どもの活動を指導・支援していきます。子どもたちから目標をしっかり引き出し、その目標に向かってチャレンジする姿をじっくり見守ったり励ましたりして鍛えます。そして、子どもたちの気づきや考え、行動を見取り、ほめます。また、その考えや行動を「価値づけ」「意味づけ」して、次の活動に意識をつなげ、子どもたちの力をのびします。

このサイクルを繰り返すことによって、ただ「体験」するだけでなく、「体験」と「学び」がつながり、学びのある「体験活動」へと発展していくと考えます。また、これによって成功する体験を重ねた子どもたちは学び方が習慣化され、自律的に成長するための原動力となる人格的資質が育ちます。

※「鍛ほめ福岡メソッド」とは・・・福岡県が展開している指導方法で、学校・家庭・地域などでの教育活動において、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成するための指導方法です。

ポイント3 「振り返る活動」を大切にしましょう

子どもたちの集団宿泊活動への気持ちや意欲を維持していくためには、「振り返る活動」が大変重要になります。チャレンジの結果、目標を達成できた場合は結果だけでもほめることができますが、達成できなかった場合は気持ちや意欲が低下してしまう可能性があります。さらに、個人の能力や失敗に原因を求めてしまうのは、本当によくありません。ポイント2でも触れましたが、ここで大事なものは、目標達成に向けて努力を重ねた「プロセス」を振り返り、ほめることです。

次の活動は〇〇に気をつけてやってみよう！
がんばるぞ！

【意味づけ・価値づけ】

- 「目標を達成するために大切なことって何？」
 - ・みんなで集中！ ・みんなで声を出すこと ・ドンマイ！
 - ・気づいたことをアドバイスし合うこと
 - ◎「成功や失敗からいろんなことに気づいたね。いいですね。次の活動が楽しみですね。」
- 短い言葉やキーワードでまとめるとよい。

【振り返る活動】

- ① 「達成、おめでとう！よくがんばったね。」
- ② 「上手くいった原因は何とと思いますか？」
 - ・みんなが集中していた。
 - ・〇〇さんの合図がよかったよね。
 - ・みんなの息がぴったりだった。
 - ・〇〇さんのアドバイスがよかった。
 - ・後半、みんなが盛り上がりから、よくなったよね。みんなで掛け声を出したら、もっとよくなりそうだね。

目標を達成できた！

【振り返る活動】

- ① 「おしかったね。でも、ナイスチャレンジでした。」
- ② 「成功するためには何が足りなかったのか、考えてみましょう。」
 - ・みんなの息が合っていないよね。
 - ・始めはとくにバラバラだったね。
 - ・もっと、掛け声があるといいね。
 - ・失敗したけど、〇〇さんのアドバイスでちょっとよくなったよね。
 - ・〇〇さんの「ドンマイ」の声がホッとしましたよ。

目標を達成できなかった…。

【「振り返る活動」の例】

◎「振り返る活動」設定のワンポイント！～時間の確保と方法や形の工夫～

「振り返る活動」には、時間を要します。そのため、つい省略したり流れてしまったりしがちです。しかし、教育的効果を高めるためには大事な活動なので、時間をしっかり確保してほしいです。宿泊活動全体のプログラム作成時にも「振り返る活動」の時間を意識してください。

また、「振り返る活動」の形や流れにも工夫が必要です。ここでは、子どもたち全員が参加することが大切です。大人数では一人一人の発言の機会が減ってしまいます。まずは、5～8人のグループで、みんなの意見から達成のためのキーワードを出し、その後、全体で紹介し合って共有するなどが考えられます。